

スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状

村嶋 智明, 堀部 兼孝, 内藤 健晴

藤田保健衛生大学医学部 耳鼻咽喉科学教室

【はじめに】スギ・ヒノキ科花粉症患者では鼻症状のみではなく、咳嗽および咽喉頭異常感の咽喉頭症状がみられることが知られているが、咽喉頭症状についての検討は少ない。また、咽喉頭症状と後鼻漏との関連性はしばしば議論となる。そこで今回我々は、スギ・ヒノキ科花粉症患者の咽喉頭症状および後鼻漏について検討した。

【対象および方法】2014年のスギ・ヒノキ科花粉飛散期中に受診したスギ・ヒノキ科花粉症患者48名を対象とし、さらに対象を花粉飛散状況から初期治療群21名、スギ飛散後治療群27名の2群に分類した。

対象には治療としてベポタスチンベシル酸塩10mgを1日2回(朝・夕)経口投与させ、患者に手渡した「アレルギー症状日記」に基いて咽喉頭症状および後鼻漏の症状の推移の観察と、それぞれの症状の関連性について検討した。

【結果】咽喉頭症状の推移は花粉飛散期を通してほぼ横ばいであった一方で、後鼻漏の推移は花粉飛散数の増減と共に変動し、両者の推移は一致しなかった。また、乾性咳嗽および咽喉頭異常感の間で有意な関連性を認められた。

【考察】2014年の花粉飛散数が少なく鼻症状は重症化しなかったことから、咽喉頭症状は花粉飛散期を通して軽症かつ横ばいの推移を来したものと考えられた。また、乾性咳嗽および咽喉頭異常感の間に有意な関連性があったことから、スギ・ヒノキ科花粉症にみられる咽喉頭症状には喉頭アレルギーが関与している可能性が考えられた。